仙台市文化財調査報告書第460集

宮城県仙台市

# 郡山遺跡 37

―― 平成28年度発掘調査概報 ――

2017.3

仙台市教育委員会

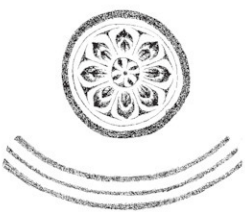
仙台市文化財調査報告書第460集
郡山遺跡 37
―平成二十八年度発掘調査概報―
二〇一七年三月
仙台市教育委員会

仙台市文化財調査報告書第460集

宮城県仙台市

# 郡山遺跡 37

―― 平成28年度発掘調査概報 ――



2017.3

仙台市教育委員会

# 序　文

日頃より仙台市の文化財行政に対しご理解、ご協力を賜り感謝申し上げます。市内には現在約780ヵ所の遺跡が確認されております。このような埋蔵文化財はその時代ごとにその地に住んだ人々の痕跡を伝えるものであり、当委員会としましては皆様のご理解とご協力を得て、大切な文化財を保存し、後世に伝えるように努めているところであります。

ここにご報告いたします郡山遺跡は、地方官衙としてはわが国でも最古段階の重要な遺跡です。昭和54年以来、継続的に実施してまいりました発掘調査により、古代の文献に記録のない“幻の城柵”は、まさに“甦る城柵”として私たちの前に姿を現してきました。

平成23年3月11日に発生し、東北地方に大きな爪痕を残した東日本大震災から6年の月日が経ちました。震災集中復興期間が終了した昨年度に引き続き、今年度も個人住宅建築または建替え、宅地造成等に伴う調査件数が増加傾向にあります。

このような状況の中で、発掘調査を継続できましたのも遺跡の究明にご助言をいただいた先学の諸氏や、市民の皆様のご協力があったからだと感じております。震災からの復興・創生期間においても、文化財の調査成果が遺跡保護や整備、そして私達の生活文化に寄与することを願ってやみません。今後とも皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成29年3月

仙台市教育委員会

教育長　大越　裕光

# 例　　言

1. 本書は国庫補助事業による市内遺跡調査のうち、郡山遺跡内の個人住宅建築工事に関連した発掘調査の調査報告である。
2. 本概報は調査速報を目的としている。執筆は以下のように分担した。
   第1章　高橋和也
   第2章　五十嵐愛
   第3章　高橋和也
3. 本書の作成に関わる作業は、以下のように分担し、編集は五十嵐愛が行った。
   遺物の基礎整理～実測図作成、遺物図・遺構図トレース、図版作成、遺物観察表作成：五十嵐愛、郡山遺跡発掘調査事務所作業員
   遺構註記表作成・遺物写真撮影：五十嵐愛
4. 本書の内容は既に公開されている各種の発表会資料に優先する。
5. 本書に係わる出土遺物、実測図、写真などは仙台市教育委員会が保管している。

# 凡　　例

1. 断面図の標高値は、海抜高度を示している。但し、海抜高度及び座標系は、平成23年（2011）3月11日の東日本大震災以前の値を使用している。
2. 第2章の図中に示した座標系は、郡山遺跡内に昭和56年に設定し、平成8年度に改訂した任意の座標系（X=0、Y=0を通る磁北線（1984年頃の偏角で、真北から6°44′7″西傾））で表記している。
3. 文中の方位は、真北を基準としている。また、図中の方位に「☆」を付したものは真北を示し、これ以外の方位は座標系に沿った磁北を示している。
4. 遺構の略称は次のとおりである。遺構番号はこれまで調査された調査区を通しての番号順である。但し、ピットは調査区毎となっている。
   SA：柱列・材木列　　SB：掘立柱建物跡　　SD：溝跡　　SI：竪穴住居跡　　SK：土坑
   SX：性格不明遺構　　P：ピット・柱穴
5. 遺物の略号は次のとおりである。
   A：縄文土器　　B：弥生土器　　C：土師器（ロクロ不使用）　　D：土師器（ロクロ使用）
   E：須恵器　　F：丸瓦・軒丸瓦　　G：平瓦・軒平瓦　　K：石器・石製品　　N：鉄製品
6. 土師器実測図における網掛けは、黒色処理が施されていることを示している。その他の付着物や痕跡は図上に表記している。
7. 遺物観察表中の法量で（　）が付いた数字は、図上で復元した推定値である。
8. 土色については「新版標準土色帖」（小山・竹原1989）を使用した。
9. 第1図は、1：25000「長町」を使用し作成した。

# 目　　次

第１章　はじめに
Ⅰ．調査体制 …… 1
Ⅱ．調査計画と実績
１．調査計画 …… 1
２．調査実績 …… 1

第２章　郡山遺跡
Ⅰ．第262次発掘調査
１．調査経過と調査方法 …… 4
２．検出遺構と出土遺物 …… 4
３．まとめ …… 5
Ⅱ．第265次発掘調査
１．調査経過と調査方法 …… 6
２．検出遺構と出土遺物 …… 6
３．まとめ …… 11

第３章　調査成果の普及と関連活動 …… 17

# 第１章　はじめに

## Ⅰ．調査体制

調査主体　仙台市教育委員会
調査担当　文化財課長　長島栄一
　　整備活用係　係長　斎野裕彦、主任　小野寺啓次、主事　五十嵐愛
　　文化財教諭　小山祐明、千葉昂太、高橋和也
　　専門員　木村浩二
　　調査調整係　係長　荒井格、主査　平間亮輔、主任　鈴木隆
　　主事　及川謙作、庄子裕美、髙橋純平、小林航
　　文化財教諭　吉田真太郎、笹原淳、佐藤慶一、及川基
　　専門員　佐藤洋

発掘調査・整理作業を適正に実施するため「郡山遺跡・陸奥国分寺跡等調査指導委員会」を設置し、指導・助言を受けていた。指導委員会委員更新の必要性があるが、東日本大震災からの復旧に伴う発掘調査を優先せざるを得ない状況であったことから、今年度はやむなく休会となった。平成29年度以降、郡山遺跡と陸奥国分寺跡等の遺跡内での発掘調査の状況を踏まえて、再開の調整を図っていくこととする。

## Ⅱ．調査計画と実績

### １．調査計画

平成28年度に計画した本書掲載の調査は、国庫補助事業である「市内遺跡発掘調査」の一部として計画し、郡山遺跡を対象とした。

郡山遺跡では第5次5ヶ年計画終了後に平成17年度から補足調査を実施してきたが、東日本大震災からの早期復旧・復興を考慮し、昨年度に引き続き個人住宅建築及び震災復興に関わる調査に特化して事業を計画した。

発掘調査総経費は22,702,000円、国庫補助金額11,351,000円の予算で計画し、当初は郡山遺跡の個人住宅対応に6,399,532円、「仙台平野の遺跡群」として郡山遺跡以外の市域全体の個人住宅対応に7,463,468円、仙台城跡に8,839,000円とした。これによって本書の掲載に関わる発掘調査の実施計画を以下のように立案した。

| 遺跡名 | 調査地区 | 調査予定面積 | 調査予定期間 | 調査原因 |
|---|---|---|---|---|
| 郡山遺跡 | 官衙内部など5箇所 | 300㎡ | H28年４月～平成29年３月 | 個人住宅建築 |

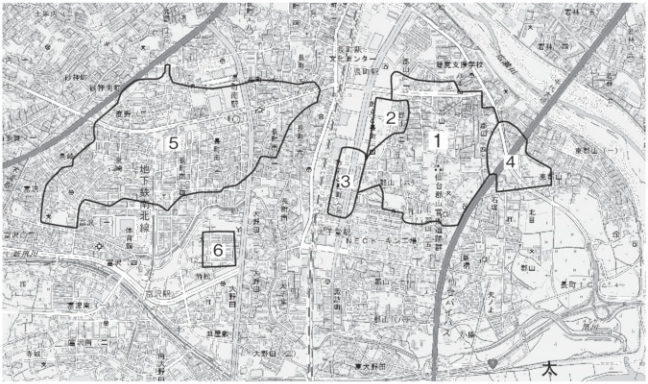
表1　平成28年度発掘調査計画

### ２．調査実績

郡山遺跡については、平成28年度は6箇所の調査を実施した。そのうち本報告書では、国庫補助事業の対象となる個人住宅建築に関わる調査である第265次調査の報告をする。なお、平成27年度中に実施したものの年度末であったため、『郡山遺跡36－平成27年度発掘調査概報－』内の「平成27年度発掘調査実績」に掲載したが、報告ができなかった第262次調査についても本書にて報告をする。また受託事業で行われた第260・263次調査については本年度に刊行される『仙台市文化財調査報告書第458集　沓形遺跡他発掘調査報告書』に所収される予定である。また、平成28年度中に実施した第267次調査報告の詳細は次年度の報告とする。

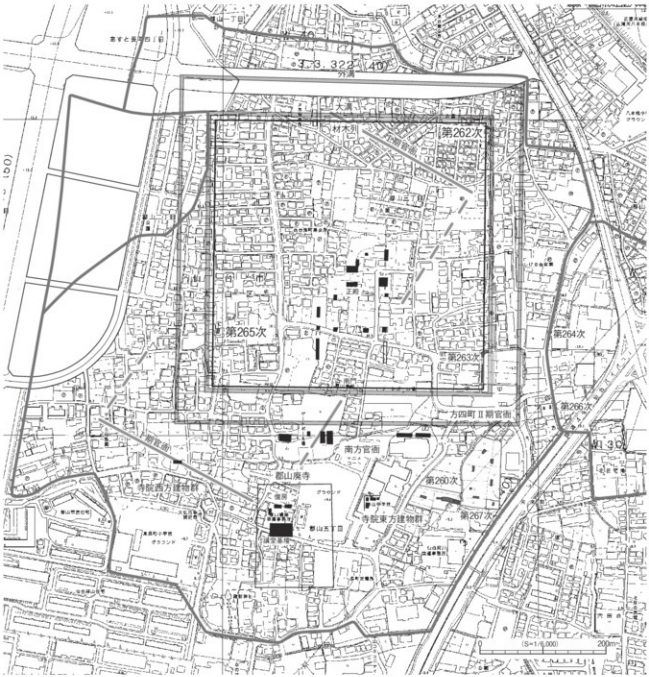
| 遺跡名・調査次数 | 調査地区 | 調査面積 | 調査期間 | 調査原因 | 対応 |
|---|---|---|---|---|---|
| 郡山遺跡　第260次 | 郡山遺跡南東部 | 170㎡ | 平成28年４月18日～７月７日 | 宅地造成 | 開発に伴う本発掘調査 |
| 郡山遺跡　第262次 | Ⅱ期官衙北東部 | 10.75㎡ | 平成28年１月27日～２月２日 | 個人住宅建築 | 郡山遺跡ほか調査 |
| 郡山遺跡　第263次 | Ⅱ期官衙南東部 | 107.60㎡ | 平成28年６月６日～７月22日 | 宅地造成 | 開発に伴う本発掘調査 |
| 郡山遺跡　第264次 | 郡山遺跡東部 | 4㎡ | 平成28年６月13日 | 宅地造成 | 開発に伴う事前調査 |
| 郡山遺跡　第265次 | Ⅱ期官衙南西部 | 23㎡ | 平成28年７月１日～７月13日 | 個人住宅建築 | 郡山遺跡ほか調査 |
| 郡山遺跡　第266次 | 郡山遺跡東部 | 16㎡ | 平成28年12月12日 | 長屋住宅建築 | 開発に伴う事前調査 |
| 郡山遺跡　第267次 | 郡山遺跡南東部 | 12㎡ | 平成29年１月10日 | 個人住宅建築 | 郡山遺跡ほか調査 |

表２　平成28年度発掘調査実績　（一部前年度実績を含む）




1. 郡山遺跡　2. 西台畑遺跡　3. 長町駅東遺跡　4. 北目城跡　5. 富沢遺跡　6. 大野田官衙遺跡

第１図　調査遺跡位置図




第2図　郡山遺跡調査地点位置図

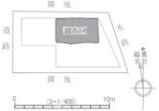
# 第２章　郡山遺跡

## Ⅰ　第262次発掘調査

### １．調査経過と調査方法

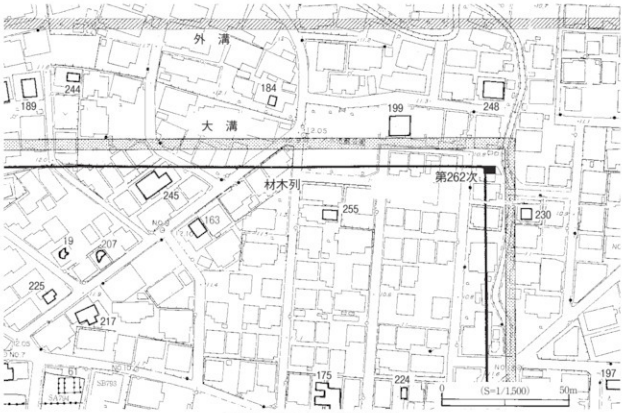
第262次調査は、個人住宅建築に伴う調査である。平成27年11月30日付けで申請者より提出された「埋蔵文化財発掘の届出について」（平成27年12月10日付H27教生文第101－515号で回答）に基づき実施した。

今回の調査地点は、郡山遺跡の北東側で、方四町Ⅱ期官衙材木列の北東隅に位置し、平成24年度に調査が行われた第230次調査区の北西側に、平成25年度に調査が行われた第248次調査区の南側にあたる。（第２・４図）



第３図　第262次調査区配置図

調査は平成28年１月27日に着手し、建築予定範囲内に東西4.5m、南北2.5mの規模で調査区を設定した。重機により表土および基本層第Ⅰ層の途中まで掘り下げ、GL－0.6m付近で遺構検出作業を行った。Ⅰ層中でレンガ等の破片の混入が認められたことから、比較的最近の河川堆積土であることが判明した。調査区の一部をトレンチ状に掘削し、古代の遺構検出面であると考えられる基本層第Ⅱ層の確認と遺構検出に努めた。その後、調査区平面図をS=1/20で、調査区断面図をS=1/20で作製した。記録写真は35mmモノクロとリバーサルフィルム、デジタルカメラを用いて撮影した。また調査の際に、郡山座標（№9）から、基準点と水準点の移設を行った。２月２日に調査を終了し、その後重機により埋め戻しを行った。



第４図　第262次調査区位置図

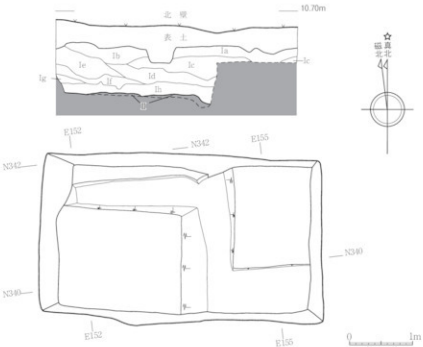
### ２．検出遺構と出土遺物

今回の調査では、遺構、遺物は検出されなかった。

## 3．まとめ

第262次調査区は郡山遺跡の北東側で、方四町Ⅱ期官衙材木列の北東隅付近に位置し、平成24年度に調査が行われた第230次調査区の北西側に、平成25年度に調査が行われた第248次調査区の南側に位置する。

今回検出された基本層Ⅰ層は、河川堆積層と考えられるが、これは東側に隣接する郡山堀のかつての流路の一部である可能性がある。Ⅰ層の層厚が70～90cmと厚いことから、当調査区は古代の遺構検出面の上面が削平されているものと推定される。この状況は北側の第248次調査区の状況と類似している。




| 層位 | 色調 | 土質 | 備考・混入物 |
|---|---|---|---|
| Ⅰa | 10YR3/3 暗褐色 | 砂質シルト | 炭化物（φ1cm）少量 |
| Ⅰb | 10YR3/4 暗褐色 | 砂質シルト | 炭化粒（φ2mm）少量 |
| Ⅰc | 10YR3/4 暗褐色 | 砂質シルト | 円礫（φ1cm）少量 |
| Ⅰd | 10YR4/3 にぶい黄褐色 | 砂質シルト | 酸化鉄粒（φ2mm）少量 |
| Ⅰe | 10YR3/4 暗褐色 | 砂質シルト | 酸化鉄ブロック(φ1cm)少量 |
| Ⅰf | 10YR4/4 褐色 | 砂質シルト | 炭化粒（φ2mm）少量　一部グライ化 |
| Ⅰg | 10YR2/2 黒褐色 | 粘土 | 炭化粒（φ2mm）少量　一部グライ化　レンガ片混入 |
| Ⅰh | 10YR3/3 暗褐色 | 粘土 | 酸化鉄粒（φ2～5mm）斑状に含む　一部グライ化 |
| Ⅱ | 10YR4/6 褐色 | 粘土質シルト | 酸化鉄粒（φ2mm）斑状に含む　古代の遺構検出面 |

第5図　第262次調査区平・断面図

1．調査区全景遺構検出状況（西から）

2．調査区北壁土層断面（南から）

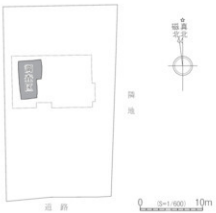
写真図版1　第262次調査区

# Ⅱ　第265次発掘調査

## 1．調査経過と調査方法

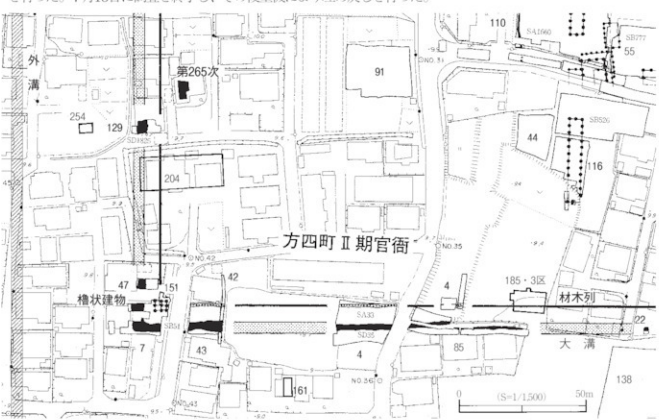
第265次調査は、個人住宅建築に伴う調査である。平成28年4月20日付けで申請者より提出された「埋蔵文化財発掘の届出について」（平成28年5月10日付H28教生文第101－053号で回答）に基づき実施した。

今回の調査地点は、郡山遺跡方四町Ⅱ期官衙の西辺付近に位置し、昭和56年度に調査が行われた第16次調査区と平成19年度に調査が行われた第187次調査区、平成27年度に調査が行われた第258次調査区の南側に、平成11年度に調査が行われた第129次調査区の北東側に、平成3年度に調査が行われた第91次調査区の西側にあたる。（第2・7図）




第6図　第265次調査区配置図

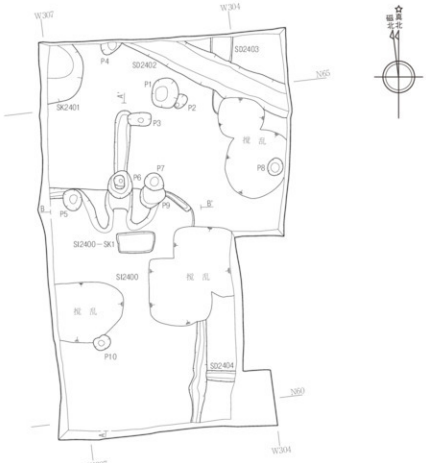
調査は平成28年7月1日に着手し、建築予定範囲内に東西4.0m、南北3.3mの規模で調査区を設定した。重機により盛土および基本層第Ⅰ層を掘り下げ、Ⅱ層上面で遺構検出作業を行った。また、調査区の南側に遺構が広がることが確認されたため、調査区を南側に東西3.0m、南北3.0m拡張したが、遺構の全体像を確認することはできなかった。遺構の記録は、平面図・断面図をS=1/20で作製し、記録写真はデジタルカメラを用いて撮影した。また、調査の際に、郡山座標（№44）から基準点・水準点の移設を行った。7月13日に調査を終了し、その後重機により埋め戻しを行った。




第7図　第265次調査区位置図

## 2．検出遺構と出土遺物

検出された遺構は、竪穴住居跡1軒、溝跡3条、土坑1基、ピット10基である。また、各遺構及び基本層中と、遺構検出面、堆積土を中心に土師器や須恵器などの遺物が出土している。




| 遺構名 | 層位 | 土色 | 土質 | 備考・混入物 |
|---|---|---|---|---|
| 基本層 | Ⅰ | 10YR3/3暗褐色 | 粘土質シルト | 10BR4/6褐色粘土ブロック（φ1～3cm）少量含む |
| | Ⅱ | 10YR4/4褐色 | 粘土 | 10BR3/4暗褐色粘土ブロック（φ1～3cm）やや多量に含む |
| SI2400 | 1 | 10YR4/3にぶい黄褐色 | 粘土 | 10BR5/4にぶい黄褐色粘土ブロック（φ3～5cm）少量含む　炭化粒微量含む　SI2400堆積土 |
| | 2 | 10YR3/3暗褐色 | 粘土 | 炭化粒（φ5～10mm）多量含む　焼土粒少量含む　SI2400堆積土 |
| | 3 | 10YR4/3にぶい黄褐色 | シルト | 黄褐色シルトブロック微量含む　SI2400カマド跡 |
| | 4 | 5YR3/2暗赤褐色 | シルト | 赤褐色シルトブロック多量含む　炭化物中量含む　黄褐色シルトブロック少量含む　SI2400カマド焼土 |
| | 5a | 10YR3/4暗褐色 | 粘土 | 10BR4/6褐色粘土　斑状に多量含む　SI2400周溝堆積土 |
| | 5b | 10YR3/4暗褐色 | 粘土 | 10BR4/6褐色粘土　斑状に少量含む　SI2400周溝堆積土 |
| | 6 | 10YR2/3黒褐色 | 粘土 | 10BR5/4にぶい黄褐色粘土ブロック（φ1～7cm）多量含む　SI2400掘方埋土 |
| SK2401 | 1 | 10YR3/4暗褐色 | 粘土 | 10BR4/6褐色粘土ブロック（φ0.5～3cm）多量含む |

第8図　第265次調査区平・断面図

【SI2400竪穴住居跡】

調査区の南東側で検出された。SD2404溝跡より新しく、P3・P5・P6・P9・P10より古い。住居跡の北辺と東辺にかけて確認したが、南辺と西辺が調査区外となっている。規模は東西方向が2.4m以上、南北方向が3.9m以上である。カマド煙道を基準とした方向はN－1°－Eである。堆積土は単層で、遺構検出面から床面までの深さは5～20cmである。掘方を約30cm埋め戻して床面としている。床面の施設としては、カマド、周溝、土坑1基（SI2400－SK1）が検出された。カマドは北壁東寄りに位置し、壁面に直交して付設されている。袖の規模は、東袖が長さ約65cm、幅約45cm、西袖が長さ約70cm、幅約40cmを測る。東袖の先端部には、鑿による加工痕のある石（K－360・第9図15）が芯材として埋設されている。袖は壁面に対して逆ハの字状に付設される。燃焼部の規模は奥行き約30cm、幅約20cmであり、焼土が堆積している。燃焼部奥壁および煙道の一部は重複するP6によって削平されている。検出した煙道部の規模は、長さ約1.2m、幅20～25cm、深さ約5cmを測る。また、床面のカマド西側に小規模な焼土の堆積が認められた。周溝は北壁際および東壁際で検出されているが、北東隅で途切れている。周溝の規模は、幅10～25cm、深さ約10cmで、断面形状はU字形を呈する。堆積土は2層に細分される。土坑（SI2400－SK1）は、カマドの南側で検出されており、平面形はやや歪な長方形を呈する。規模は長辺55～60cm、短辺30～35cmで、深さは約5cmである。断面形状は浅い箱型を呈し、堆積土は単層である。

遺物は、堆積土を中心に土師器、須恵器などが出土している。特に、住居跡の東辺から、三方透かしを持つ土師器高坏（C－1214・第9図6）と、口縁部が直線的に外傾する土師器坏（C－1213・第9図4）が完形に近い状態で出土している。

遺構の時期は、住居跡よりも新しいP6から出土した土師器坏（C－1212・第10図3）の特徴がⅡ期官衙の時期のものであり（仙台市教育委員会2005）、住居跡の堆積土から出土した土師器の坏（C－1213・第9図4）や高坏（C－1214・第9図6）も同様の時期であることから、Ⅱ期官衙の時期と考えられる。

また、住居跡の掘方埋土からは、土師器の甕（C－1218・第9図9、C－1220・第9図10、C－1221・第9図11）や、土師器の平瓶（C－1217・第10図1）が出土しているが、それらは住居跡との関係から考えると、Ⅱ期官衙かそれ以前の時期の遺物である。平瓶は須恵器の器形を模倣したものと考えられる。胎土は精良で、口頸部がやや斜めに体部と接続し、底部がケズリによって平底気味の丸底に成形されている。また、体部外面には細かなハケメ調整ののちナデ調整が施されている。内・外面とも、全体に漆の付着がみられ、特に体部内面の天井部から頸部内面にかけて皮膜状の顕著な付着がみられる。また、破片の接合面にも若干の漆の付着が認められる。

【SK2401土坑】

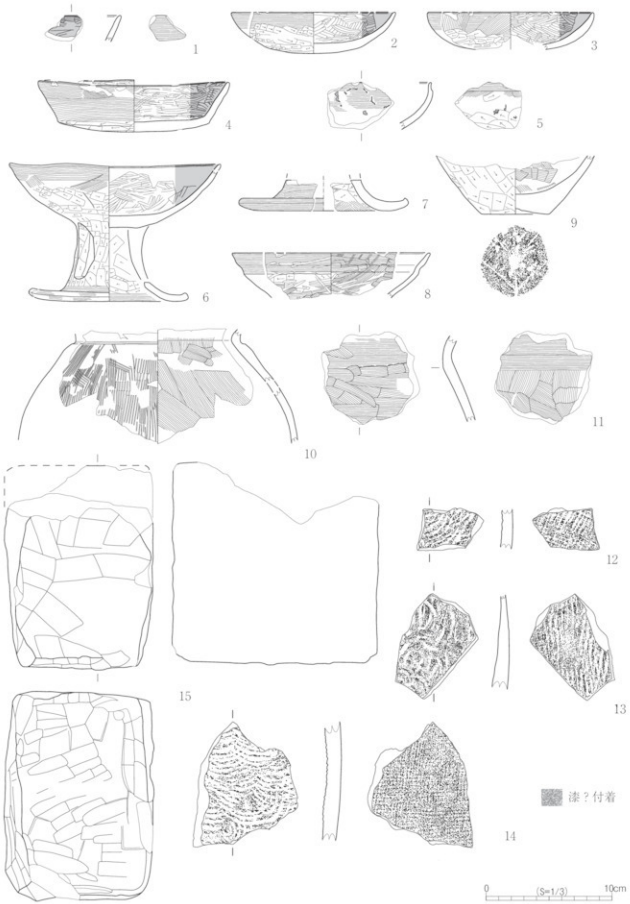
調査区の北西端で検出された。部分的な検出のため、平面形や規模は不明である。検出面からの深さは20～25cmで、断面形は浅い皿形を呈すると考えられる。堆積土は単層である。遺物は出土していない。他の遺構との重複関係はない。

【SD2402溝跡】

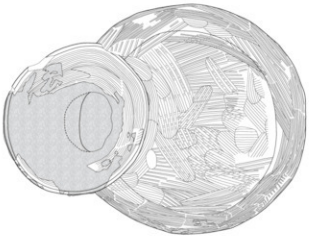
調査区北東部で検出された北西－南東方向の溝跡である。SD2403溝跡より新しい。規模は検出長が約2.9mで北と東側の調査区外にさらに延びる。方向はN－67°－Wで、上端幅が約50cm、下端幅が約30cmで、断面形状は底面がほぼ平坦な逆台形を呈する。遺構検出面から底面までの深さは約10cmで、堆積土は単層である。遺物は須恵器の小片が出土している。

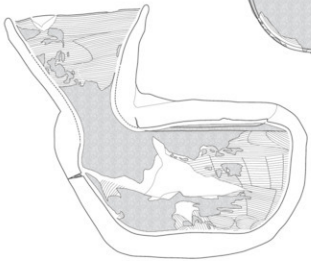
【SD2403溝跡】

調査区北端で検出された南北方向の溝跡である。SD2402溝跡より古い。規模は検出長が約1.2mで北側の調査区外にさらに延びる。方向はN－2°－Eで、上端幅が約35cm、下端幅が約30cmで、断面形状は底面がほぼ平坦な箱形を呈する。遺構検出面から底面までの深さは約10cmで、堆積土は単層である。遺物は出土していない。




第9図　SI2400竪穴住居跡出土遺物（1）





漆付着

0 (S=1/2) 10cm

漆付着

0 (S=1/3) 10cm

第10図　SI2400竪穴住居跡出土遺物（2）・ピット出土遺物

| 図版番号 | 登録番号 | 種別 | 器種 | 出土遺構・層位 | 法量（cm） | 外面調整・付着物等 | 内面調整・付着物等 | 写真図版 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 9－1 | C－1211 | 土師器 | 坏 | SI2400 | 1層 | 器高：残2.1 | 口縁部：ヨコナデ | 口縁部：ミガキ　黒色処理 | 4－1 |
| 9－2 | C－1209 | 土師器 | 坏 | SI2400 | 1層 | 口径：(13.0)　器高：3.3 | 口縁部：ヨコナデ　体～底部：ヘラケズリ | ミガキ　黒色処理 | 4－2 |
| 9－3 | C－1216 | 土師器 | 坏 | SI2400 | 1層 | 口径：(13.2)　器高：残3.0 | 口縁部：ヨコナデ→ナデ　体部：ケズリ | ミガキ　黒色処理 | 4－4 |
| 9－4 | C－1213 | 土師器 | 坏 | SI2400 | 1層 | 口径：15.1　底径：12.0<br>器高：4.1 | 口縁～体部：ヨコナデ　底部：ケズリ | ミガキ　黒色処理 | 4－3 |
| 9－5 | C－1219 | 土師器 | 坏 | SI2400 | 6層 | 器高：残3.8 | 口縁部：ヨコナデ　体部：ナデ→ケズリ<br>漆？か酸化鉄？付着 | 口縁～体上部：ヨコナデ　体下部：磨滅<br>漆？か酸化鉄？付着 | 4－9 |
| 9－6 | C－1214 | 土師器 | 高坏 | SI2400 | 1層 | 口径：16.8～17.0<br>器高：11.1<br>脚裾径：12.9～13.2 | 口縁部：ヨコナデ　体部：ナデ→ヘラケズリ<br>脚柱部：ヘラケズリ　脚裾部：ヨコナデ<br>三方透かし | 坏部：ミガキ　黒色処理　脚柱部：ヘラケズリ<br>脚裾部：ヨコナデ | 4－6 |
| 9－7 | C－1210 | 土師器 | 高坏 | SI2400 | 1層 | 脚裾径：(13.6)<br>器高：残2.5 | 脚裾部：ナデ　ヨコナデ　透かし孔有り | 脚裾部：ケズリ→ナデ | 4－5 |
| 9－8 | C－1222 | 土師器 | 高坏? | SI2400 | 1層 | 口径：(15.7)　器高：残3.6 | 口縁部：ヨコナデ→ミガキ　体部：ヘラナデ<br>ヘラケズリ　ミガキ　赤色顔料付着？ | 口縁部：ヘラナデ→ヨコナデ→ヘラナデ<br>体部：ヘラナデ→ミガキ | 4－7 |
| 9－9 | C－1218 | 土師器 | 甕 | SI2400 | 6層 | 底径：5.3　器高：残4.7 | 体部：ヘラケズリ　底部：木葉痕→ヘラケズリ | ヘラナデ　酸化鉄？付着 | 4－8 |
| 9－10 | C－1220 | 土師器 | 甕 | SI2400 | 6層 | 器高：残8.3 | 体部：ハケメ | 体部：ヘラナデ | 4－10 |
| 9－11 | C－1221 | 土師器 | 甕 | SI2400 | 6層 | 器高：残7.0 | 胴部：ヨコナデ　体部：ヘラナデ | 胴部：ヨコナデ→ナデ　体部：ヘラナデ | 4－11 |
| 9－12 | E－902 | 須恵器 | 甕 | SI2400 | 6層 | 器高：残3.3 | 平行タタキ→ナデ | 同心円文 | 4－12 |
| 9－13 | E－601 | 須恵器 | 甕 | SI2400 | 6層 | 器高：残7.6 | 平行タタキ | 同心円文 | 4－13 |
| 9－14 | E－600 | 須恵器 | 甕 | SI2400 | 1層 | 器高：残9.5 | 格子タタキ | 同心円文 | 4－14 |
| 9－15 | E－360 | 石製品 | 芯材 | SI2400 | カマド東袖 | 高さ：15.9　幅：10.2～11.3<br>厚行：16.4～17.1 | 整の痕跡 | | 4－15 |
| 10－1 | C－1217 | 土師器 | 平瓶 | SI2400 | 6層 | 口径：7.4　器高：13.6<br>底径：8.4 | 口頸部：ヨコナデ　ハケメ→ヘラケズリ→ナデ<br>体部：ハケメ→ナデ　ヘラケズリ<br>底部：ヘラケズリ　全体に漆付着 | 口頸部：ヨコナデ→ヘラナデ<br>体部：ヘラナデ→ナデ<br>底部：ヘラナデ　ナデ　全体に漆付着 | 5－1 |
| 10－2 | C－1208 | 土師器 | 甕 | P5 | | 器高：残4.3 | 口縁部：ヨコナデ→ヘラナデ　体部：ヘラケズリ<br>→ヘラナデ | 口縁部：ヨコナデ　体部：ヨコナデ→ヘラナデ | 5－2 |
| 10－3 | C－1212 | 土師器 | 坏 | P6・P7 | | 口径：(14.4)　器高：3.2 | 口縁部：ヨコナデ→ヘラナデ<br>体部：ヘラナデ→ミガキ　底部：ヘラケズリ<br>漆か酸化鉄付着 | ミガキ　黒色処理　漆か酸化鉄付着物<br>底面：漆をヘラでかき取った痕あり | 5－3 |

【SD2404溝跡】

調査区南東部で検出された東西方向の溝跡である。SI2400竪穴住居跡より古い。規模は検出長が約45cmで東側の調査区外にさらに延びる。方向はE－1°－Sで、上端幅が約15cm、下端幅が約8cmで、断面形状はU字形を呈する。遺構検出面から底面までの深さは約10cmで、堆積土は単層である。遺物は土師器の小片が出土している。

【ピット】

今回の調査区からは10基のピットが検出された。平面形状は円形を呈する。直径は20～50cm、深さは10～40cmを測る。柱痕跡が検出されたのはP5のみで、遺物は土師器の甕の破片（C－1208・第10図2）が出土している。また、P6・P7からは漆が付着した土師器の坏（C－1212・第10図3）が出土している。底面に漆をヘラで掻き取ったような痕が認められ（写真5－3）、器形および調整の特徴からⅡ期官衙の時期の遺物と考えられる（仙台市教育委員会2005）。

## 3．まとめ

今回の第265次調査区からは竪穴住居跡が1軒（SI2400）、溝跡が3条（SD2402・2403・2404）、土坑1基（SK2401）、ピット10基が検出された。このうちSI2400竪穴住居跡は、出土遺物および他の遺構との新旧関係からⅡ期官衙の時期と考えられた。

また、この住居跡の掘方埋土から出土した土師器の平瓶（C－1217・第10図1）や、ピットから出土した坏（C－1212・第10図3）など、漆が付着する遺物がみつかっている。今回の調査区の周辺では、北側の第16次、第258次調査区や、東側の第91次調査区、南側の第7次、第43次調査区で漆が付着する遺物が出土している。そのうち、第91次、第43次調査区では、須恵器の平瓶に漆が付着して見つかっており、その他の調査区では須恵器・土師器の瓶や壺と推測される破片に漆の付着が確認されている。今回の調査からは、Ⅱ期官衙の時期に周辺に漆を使用した工房等が存在していたと推測されるが、それ以前の様相については、今後良好な資料の蓄積を待って考えていく必要がある。

このように、今回の調査区では竪穴住居跡等が検出されたが、遺構の部分的な調査であるため、詳細については周囲の状況とともに今後更に検討を重ねていく必要がある。

1. 調査区全景遺構検出状況（南から）

2. SI2400東辺遺物出土状況（南から）

3. SI2400カマド検出状況（南から）

4. SI2400カマド東袖・掘方埋土遺物出土状況（南東から）

5. SI2400カマド東袖・掘方埋土遺物出土状況（南から）

写真図版2　第265次調査区（1）

1. S12400床面完掘状況（南から）

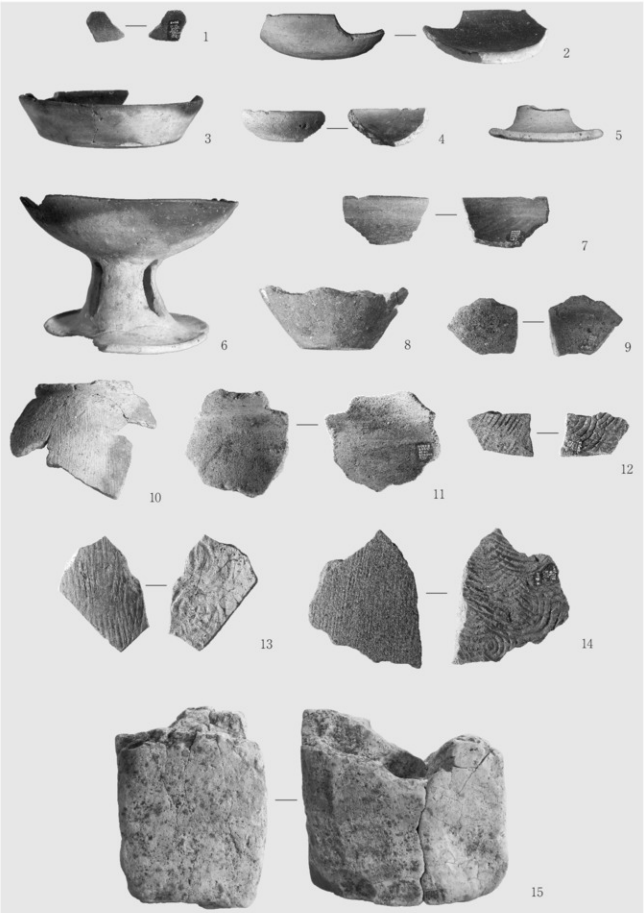
2. S12400南北ベルト（南東から）

3. S12400南北ベルト煙道部（東から）

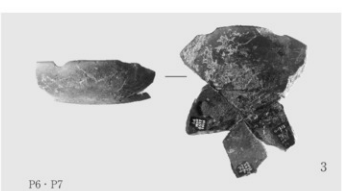
4. 調査区西壁（南東から）

5. 調査区全景遺構完掘状況（南から）

写真図版3　第265次調査区（2）




写真図版4　第265次調査出土遺物（1）




写真図版５　第265次調査出土遺物（2）

## 引用・参考文献


仙台市教育委員会　1981　『郡山遺跡Ⅰ』　仙台市文化財調査報告書第29集
仙台市教育委員会　1982　『郡山遺跡Ⅱ』　仙台市文化財調査報告書第38集
仙台市教育委員会　1984　『郡山遺跡Ⅳ』　仙台市文化財調査報告書第64集
仙台市教育委員会　1985　『郡山遺跡Ⅴ』　仙台市文化財調査報告書第74集
仙台市教育委員会　1992　『郡山遺跡ⅩⅡ』　仙台市文化財調査報告書第161集
仙台市教育委員会　2000　『郡山遺跡ⅩⅩ』　仙台市文化財調査報告書第244集
仙台市教育委員会　2003　『郡山遺跡23』　仙台市文化財調査報告書第263集
仙台市教育委員会　2005　『郡山遺跡発掘調査報告書　総括編（1）』　仙台市文化財調査報告書第283集
辻秀人他　2007　「古代東北・北海道におけるモノ・ヒト・文化交流の研究」
平成15年度～平成18年度科学研究費補助金（基盤研究B）研究成果報告書
仙台市教育委員会　2008　『郡山遺跡28』　仙台市文化財調査報告書第327集
仙台市教育委員会　2010　『郡山遺跡30』　仙台市文化財調査報告書第373集
仙台市教育委員会　2013　『仙台市震災復興関係遺跡発掘調査報告Ⅰ』　仙台市文化財調査報告書第416集
仙台市教育委員会　2015　『郡山遺跡35』　仙台市文化財調査報告書第438集
仙台市教育委員会　2016　『荒井南遺跡他』　仙台市文化財調査報告書第446集
仙台市教育委員会　2016　『仙台市震災復興関係遺跡発掘調査報告Ⅱ』　仙台市文化財調査報告書第448集

# 第３章　調査成果の普及と関連活動

1．主な広報・普及・協力活動

| 年月日 | 行事名称 | 担　当 | 対　象 |
|---|---|---|---|
| 2016. 5.18～22 | 職場体験学習 | 高橋・五十嵐 | 仙台市立長町中学校２年生３名 |
| 5.28 | 郡山中ビロティ見学 | 木村 | 主催：ディスカバーたいはく40名 |
| 7.19 | 美化活動 | 整備活用係 | 仙台市立東長町小学校６年 |
| 7.27 | 出前講座 | 五十嵐 | 仙台・文化財サポーター会６名 |
| 7.27 | 資料調査 | 高橋 | １名 |
| 8.22～24 | 職場体験学習 | 高橋・五十嵐 | 仙台市立中田中学校２年生３名 |
| 8.24 | 出前講座 | 五十嵐 | 仙台・文化財サポーター会８名 |
| 8.25～30 | 職場体験学習 | 高橋・五十嵐 | 仙台市立郡山中学校２年生３名 |
| 9. 1 | 郡山中ビロティ見学 | 五十嵐 | 主催：宮城ウォーキング協会70名 |
| 9.14 | 郡山中ビロティ見学 | 木村 | 古代教養講座37名 |
| 9.28 | 郡山遺跡見学 | 高橋 | 仙台・文化財サポーター会10名 |
| 11.15～17 | 職場体験学習 | 高橋・五十嵐 | 仙台市立柳生中学校２年生４名 |
| 11.22 | 資料調査 | 高橋 | １名（北海道大学より） |
| 12. 1 | 郡山中ビロティ見学 | 五十嵐 | 主催：豊齢学園OB史跡巡りの会15名 |
| 2016. 4. 8～（毎月8日） | 薬師堂手づくり市 | 整備活用係 | 一般市民（主催：薬師堂手づくり市実行委員会） |

中学生職場体験活動

郡山中学校ビロティ見学

薬師堂手づくり市

美化活動（東長町小６年）

# 報　告　書　抄　録

| | |
|---|---|
| ふりがな | こおりやまいせき |
| 書名 | 郡山遺跡37 |
| 副書名 | 平成28年度発掘調査概報 |
| 巻次 | 37 |
| シリーズ名 | 仙台市文化財調査報告書 |
| シリーズ番号 | 第460集 |
| 編著者名 | 五十嵐愛、高橋和也 |
| 編集機関 | 仙台市教育委員会（文化財課） |
| 所在地 | 〒980-0011　宮城県仙台市青葉区上杉１丁目５－12　上杉分庁舎10階　TEL 022（214）8893 |
| 発行年月日 | 2017年３月31日 |

| ふりがな<br>所収遺跡名 | ふりがな<br>所在地 | コード<br>市町村 | コード<br>遺跡番号 | 北緯 | 東経 | 調査期間 | | 調査面積<br>（㎡） | 調査原因 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 郡山遺跡（こおりやまいせき） | みやぎけん<br>宮城県<br>せんだいし<br>仙台市<br>たいはくぐ<br>太白区 | 4100 | 1003 | 38°<br>12′<br>58″ | 140°<br>53′<br>41″ | 262次 | 2016.1.27<br>～2016.2.2 | 10.75㎡ | 個人住宅建築 |
| | 郡山 | | | | | 265次 | 2016.7.1<br>～2016.7.13 | 23㎡ | 個人住宅建築 |

| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 |
|---|---|---|---|---|---|
| 郡山遺跡 | 官衙跡<br>寺院跡<br>集落跡 | 飛鳥～<br>平安 | ・住居跡 | ・土師器　・須恵器 | 漆容器として用いられた土師器平瓶が出土 |

| | |
|---|---|
| 要約 | ・第265次調査では方四町Ⅱ期官衙域の西辺付近でⅡ期官衙の時期の竪穴住居跡が発見され、土師器や須恵器などの遺物が出土した |

仙台市文化財調査報告書第460集

# 郡 山 遺 跡 37

— 平成28年度発掘調査概報 —

2017年3月

発行　仙台市教育委員会
仙台市青葉区上杉一丁目5－12
上杉分庁舎10F
文化財課 TEL 022（214）8893

印刷　モリタ印刷 株式会社
仙台市太白区郡山八丁目20－30
TEL 022（246）0105